SPECIAL ISSUE

特集 他者のために学ぶ

―震災から1年後の、生徒と教師―

未曽有の被害をもたらした東日本大震災。
今回の震災を契機に、
次代を担う生徒は何を考え、行動したのか。
そして高校現場は、生徒の内なる思いをいかにくみ取り、
日々の指導へとつなげているのだろうか。

震災を契機に、高校は変わったか

Q. 先生自身のご指導に変化はありましたか？

あった 20%	ない 80%

- 他人の役に立つために学ぼうとする生徒に機会を提供することの重要性を認識しながら、学びの場としての学校のあり方を再構成している。（宮崎県）
- 理科の授業で放射線や原発について扱い、科学的な判断力を養うと共に、理系としてどのような貢献が出来るかを説いた。（広島県）
- 実際に被災地の状況を見て何かしなければとは思ったが、何をすればいいのか具体的には分からなかった。ただ、生徒にもそうした状況を実感を持って理解してほしくて、被災地の高校教師を講演会に招くなどした。（秋田県）

Q. 生徒の学びの姿勢に変化はありましたか？

あった 42%	ない 58%

- 不自由なく学べる環境に感謝し、ひたむきに学習する生徒が増えたように思う。（秋田県）
- 学ぶことの目的が、自己中心的なものから世の中のためという方向にシフトしたように感じる。（三重県）
- 自分のことしか考えない生徒が減ったように思う。また、自ら考えてボランティア活動や募金活動を積極的にするようになった。（大阪府）
- 自分自身の置かれている状況や環境を理解し、その状況下で最大限に努力しようとする生徒が増えてきたと感じている。（東京都）

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは 2012 年3月に実施。Web 及び用紙を郵送し、Web にて回答もしくはファクスで回収。
有効回答数は 69。

本誌2011年6月号「東日本大震災　被災地の教師と生徒の想い」

『VIEW21』編集部では、2011年４月18日から３日間、被災地の高校６校を訪問し、先生方に取材をさせていただき、その内容を「特別企画」として掲載しました。

●訪問校（訪問順）
宮城県気仙沼高校、岩手県立大船渡高校、岩手県立高田高校、岩手県立釜石高校、岩手県立宮古高校、岩手県立宮古商業高校

震災から1年、生徒と教師の思い

被災地の教師の思い

【P.6〜7】

震災から1年、あの日からの学校とこれからの生徒たち

岩手県立宮古高校
吉田達行

宮城県気仙沼高校
佐藤忠司

若者たちの思い

【P.8〜19】

私たちの未来のために、今、私たちにできること

「被災しても懸命に勉強を続ける後輩のことを、自分には関係ないとは思えませんでした」
福島県立安積高校　卒業生

「勝ち進むうちに、優勝して福島の人に元気を与えたいと思うようになったんです」
福島県・私立尚志高校

「社会を変えていくため、勉強して力を蓄えることが大切だと考えるようになりました」
岡山県立勝山高校

「泥かきは少しずつしか出来ないけれど、積み重ねていけばいつか片付くはずです」
兵庫県立舞子高校

「被災地のために出来ることがあるとすれば、それは自分自身を変えることだと思います」
福岡県立修猷館高校

＊プロフィールは2012年3月時点のものです